

四谷の

# 千枚田だより



第 254 号



## 四谷の千枚田絵画コンクール 入賞作品の紹介

「2024年 四谷の千枚田絵画コンクール」主催：鞍掛山麓千枚田保存会・東三河郵便局。後援：新城市・新城市教育委員会・新城市観光協会・奥三河観光協議会・東愛知新聞社の入賞作品が決まった。

作品募集は四谷の千枚田の自然、農作業風景、体験学習などをテーマに小中学生を対象に専用ハガキで行った。東三河や名古屋市、浜松市などの小中学生から五百八十三点の応募があり、保存会、郵便局、市教員委員会などの関係者七人が審査した結果、最優秀賞には山本聖乃さん(豊橋市石巻中二年)、浅井杏莉さん(名古屋市長小四年)、筒井梨里花さん(愛知教育大学附属名古屋中一年)、大内来未さん(新城市鳳来中二年)、原田悠進さん(新城市作手中三年)の五名(写真 上から)が選ばれた。以下、優秀賞十名、入賞三十五名を選んだ。審査委員長の中

川克夫先生は「七年間、委員長を務めているが、年々うまくなり驚く」と好評された。

入賞作品を含めた展示は鳳来寺郵便局(十一月七日～二十七日)、やまびこの丘(十一月二十九日～十二月二十五日)、奥三河郷土館(令和七年一月八日～三十日)、観来館(二月一日～二十七日)、長篠郵便局(三月五日～十七日)、新城市役所ロビー(三月十九日～二十八日)、八雲だんご直売所(四月一日～二十三日)である。

賞品は順位に応じ本年度新米・図書券・五平餅セットをお届けした。「四谷の千枚田絵画コンクール」は八雲だんごでお馴染みの(株)丸八製菓さんの多大なご協力を頂き、毎年開催している。

## 収穫感謝祭

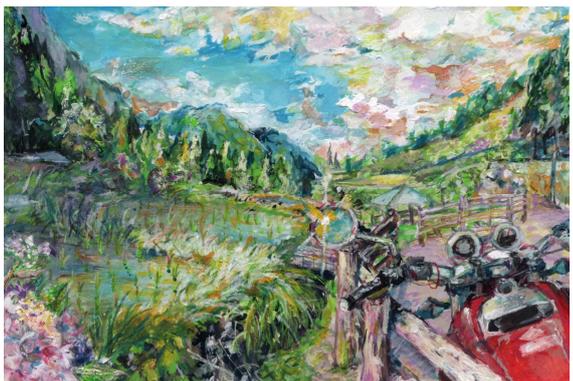
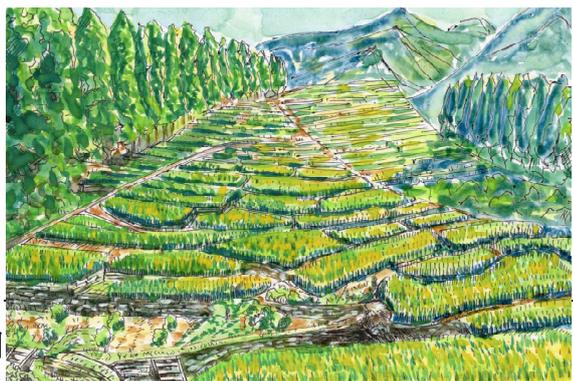
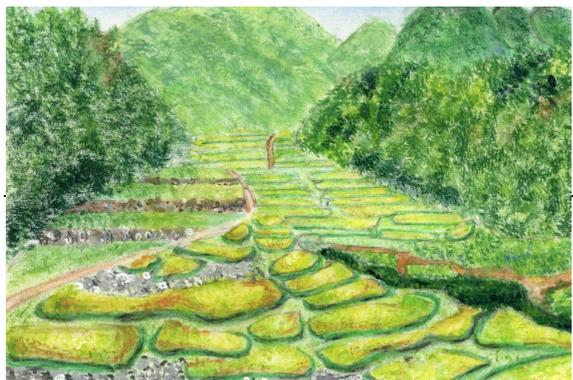
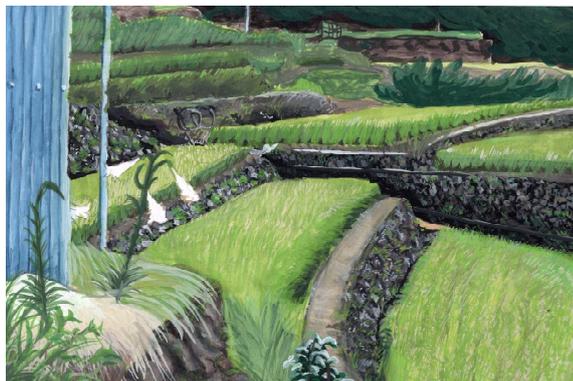
喜んで

～さあ つかまい 感謝を込めて 餅つきを～

開催期日 令和6年12月8日(日)  
午前10時～午後2時まで

開催場所 四谷の千枚田「ふれあい広場」  
皆んなでついた餅 シシ汁 焼肉(鳥長)  
五平餅 八雲だんご その他もろもろ

主催 鞍掛山麓千枚田保存会  
共催 棚田っ娘&地域の皆さん ふるさと指導員  
天空のコンサートその仲間たち



棚田

## サミット

十月十七日(木)～十八日(金)の両日、第二十九回全国棚田(千枚田)サミットが上田くわかワレル棚田「ずく」を集めて、未来につなぐと題して長野県上田市で開催。保存会からは高橋孝行、丸地典利、伊藤健司、田中幸夫、松下誠、高橋義昌、小山舜二の七名が第一分科会「棚田活用の取組み方とねらい」棚田保全に必要なこととは」に参加。



話題提供者 稲倉の棚田保全委員会玉崎氏と稲倉の棚田見学会から取得したことをかいつまんで：  
○平成十五年に地元住民を中心に「稲倉棚田保全委員会」を設立、現在では、三十畝(七百八十枚)の棚田

のうち八畝程度を保全している。

○令和二年十月には、長野県が仲介役となり、棚田の連携を促進する棚田パートナーシップ協定を地元企業の岡崎酒造(株)と締結し、稲倉の棚田で酒米オーナー制度を展開。翌年には(株)八十二銀行とも同協定を締結し、企業が棚田の保全活動に参加するとともに、魅力や価値をPRする仕組みを構築している。

○地域住民だけでは棚田の保全は困難なため、平成十八年度にオーナー制度を導入、現在は約百組に増加、その大半は都市住民である。

○棚田の勾配は「四谷の千枚田」に負けず劣らずであるが、土手積みが高く、田んぼの広さと土手の面積が同じくらいで、聞くところによるとほとんどが手作業だそう(上には上がある・草刈りが大変だ)

○交流会では全国の百姓衆・行政が一堂に会し、中島峰広棚田博士をコーディネーターに全国各地の棚田で活動している「棚田まもりびと」を指名、各々の活動報告がなされた。最後に先生から指名された小山は「棚田を維持、管理していくにはきれいごとでは成り立たない。獣害被害、天候不順と戦う百姓は並大抵でない、国民の宝とした棚田保全・継承に、行政もより温かい目を掛けていただきたい」と述べた。

## 奥三河トレラン

十月二十七日、奥三河トレイルランニングレース2024開催。  
新城市から「四谷の千枚田ふれあい広場のエイドステーション」の運

営協力(参加選手等の接待)を保存会に依頼され、地域有志(四十名)の協力で「ミネアサヒのおにぎり、シシ汁、お茶、鳥長の焼き肉」などを振る舞い、応援。参加選手も喜んで、皆んなありがとさま：



なお、この大会には地域貢献の一環として横浜ゴム社員の皆さんの沿道清掃活動など、目に見えない協力がありました。

## 脱穀

十月十日、豊橋調理製菓専門学校(稲刈りは雨上がりのため中止)と精魂かけて「一粒のコメの大切さ」

を学んだものの、稲架干しの稲をニホンジカに食べ荒らされ、例年の半分ほどの収穫になったが、これも自然の摂理と学生たちに諭した。

## 古米の出荷

十月十四日、古米の出荷。  
八雲だんご(丸八製菓 豊橋市)は四谷の千枚田の保存継承を熱望、側面から多岐にわたる支援(古米の買取り、四谷の千枚田絵画コンクール、リアル案山子の設置、四谷の千枚田もりあげ隊など)を載っている。

その一つ、地道に千枚田を守る耕作者に少しでもお役に立ちたいと、毎年古米を購入して頂いており、千枚田の百姓衆はおかげで肥料も買えるし、おかげで買える：なんちゅったって「八雲様さま」だ。と大変喜んでる。

## 秋の千枚田環境整備活動の実施

十月二十日、保存会は「奥三河トレイルランニングレース」を視野にふれあい広場、千枚田入口周辺の草刈り等を実施した。

なお、この事業には愛知県新城設楽農林水産事務所建設課から「ふるさと指導員活動支援物資」として刈り払い機燃料が支給された。

## 生産活動の実施(中山間直払い)

十一月三日、集落協定(直払い)に伴う活動(作業道の草刈り、景観保全作業など)を実施した。

行 令和六年十一月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二